

日遊協九州支部が依存問題に関する講演会 リカバリーサポート・ネットワークの西村代表理事ら講師に



講演には九州各県遊協組合員らも参加した

日遊協九州支部は4月7日、福岡市内のグランド・ハイアット福岡において講演会を開催した。講師はリカバリーサポート・ネットワークの西村直之代表理事と、日遊協依存問題プロジェクトチームの安藤博文リーダー。講演会には日遊協九州支部会員のほか九州各県遊協、九遊商、回胴九州支部の組合員ら163人が参加した。

講演前の来賓挨拶では九州管区警察局長小島紀夫、九州地区遊連の岩下博明会長らが挨拶。このうち九州管区警察局長の小島課長は、高射幸性遊技機の自主撤去への積極的な取り組みを要請するとともに「遊技くぎの不正改造は射幸性の適正管理を侵害するという大きな問題」と注意を呼びかけた。



RSN
西村直之代表理事



九州管区警察局長
小島紀夫課長



日遊協九州支部
福山裕治支部長



日遊協依存問題PT
安藤博文リーダー



九州遊連
岩下博明会長

学術的な捉え方や認識、さらに業界の対応について、西村氏と安藤氏がそれぞれ解説。

西村氏は罹患者の問題については「業界の産業規模が縮小しているのだから問題も小さくなるはずだが、1000万人という母数では1%でも10万人が危ない状態となるわけで、やはり対策が不可欠」と指摘。さらにRSNの電話相談で遊技開始年代が10代、問題化のピークが20代という傾向が表れていることについて、「始めてから非常に早い時期に疲弊しきっているのは大きな問題」と指摘した。

続いて講演を行った依存PTの安藤氏は依存のめり込み対策「自己申告プログラム」について説明。昨年12月の運用から今年3月の時点で全国12店舗の導入実績があり、そのうち2件の実施例があると報告。特に1件については一定の効果が表れたと報告した。

新宿区内の都遊連傘下4組合が 区の社会福祉協議会に福祉車両を寄贈



【写真上】右から戸塚組合の佐藤統組合長、新宿区の吉住健一区长、牛込組合の原田實組合長、四谷組合の松下恵組合長、新宿組合の齋藤組合長、ひやま真一新宿区議、戸塚組合の亀田宏司氏。【写真右】福祉車両の目録を吉住区長に手渡す原田組合長



東京都遊連の傘下組合で新宿区内にある新宿、戸塚、牛込、四谷の4組合で構成する新宿区遊技場組合連合会は4月5日、新宿区に対して福祉車両を寄贈した。

新宿区役所の区長室で行われた寄贈式では、4組合を代表して牛込組合の原田實組合長が吉住健一区长に「日産NV100クリップ」の目録を寄贈、吉住区長からは感謝状が贈られた。寄贈された車両は、区の社会福祉協議会が活用する。

これを受け吉住区長は、「車両は大切に使用させていただきたい」と、あらためて4組合に感謝の言葉を述べるとともに、都遊協及び全日遊連の理事長職を務め、暴力団排除活動を展開するなどした原田氏をねぎらった。

で閉めることになった。本日が遊技場組合としては最後の仕事になるが、地域の方々に支えられてきたことへのわずかばかりでも恩返しになれば幸い。今後は地区の防犯協会や区の伝統行事である流鏝馬保存会の会長として、少しでも地域のお役に立つよう務めていきたい」と挨拶した。